



なぎさは海のゆりかご

海のゆりかご通信 No.09 Apr 2010

～ 藻場・干潟・サンゴ礁・ヨシ帯・浅場… 「なぎさ」は人と海との共生の場 ～

2010年度 第1号。

今回は、「釣りバカ日誌」のロケ地としても話題となった大分県佐伯市において、小学生の皆さんと漁師さんとのふれ合い教室に参加した体験記をお届けします。

「大分県・名護屋地区磯焼け対策 (海創り)with 名護屋小学校 2010」

4月26、27日の両日、大分県佐伯市名護屋地区(旧蒲江町)において、「名護屋地区藻場保全活動組織」の皆さんと、地元名護屋小学校の児童の皆さん(全校児童42名)による藻場の保全活動が行われました。



名護屋地区にはかつて、20haに及ぶ豊かな藻場(ガラモ場、アラメ場)がありましたが、1995年頃から藻場の面積が縮小し、ウニ類の繁殖が目立ち始めたそうです。磯焼けに伴っ

て漁業の生産力が低下し、潜水漁業の水揚げ金額は20年前の10分の1以下に落ち込みました。大分県漁協名護屋支店の支店長を務める山岡均さんは、「沿岸の漁船漁業は、もはや環境保全なくしてやっていけない。」といいます。

このような危機感を共有した潜水漁業を営む漁師の皆さんを中心に、2007年、「名護屋地区磯焼け対策部会」が結成され、磯焼けの進んだ名護屋湾の藻場を回復するための活動が始まりました。2009年以降は、「環境・生態系保全活動支援事業」の支援を受け、「名護屋地区藻場保全活動組織」として活動を継続しています。

保全活動は、母藻の設置やウニの密度管理を主とし、2009年からは、保全活動の普及啓発と環境教育の一環として、名護屋小学校の児童の皆さんと一緒に、オープンスポアバッグの投入による母藻移植を行っています。

今回の催しは、児童の皆さんと共に行う母藻移植の第2弾(2年目)となります。

都道府県:	大分県
地域協議会:	大分県藻場干潟保全地域協議会
活動組織名:	名護屋地区藻場保全活動組織
協定先:	佐伯市
構成員数:	9名
対象資源:	藻場
活動内容:	母藻の設置、保護区域の設定、ウニの密度管理



<スポアバッグに思い思いの絵を描きました>

当日は児童の皆さんが、スポアバッグに魚や海藻など思い思いの絵を描き、母藻（ヨレモクモドキ）を取り付けました。



<用意された母藻（ヨレモクモドキ）>

あいにくの天気と波浪で、児童の皆さんによる海中への投入はできませんでしたが、感想を聞くと、「楽しい！」と元気のいい返事が返ってきました。「藻が動いとる！」と、藻に擬態してくっついていくたくさんのワレカラ



<スポアバッグに母藻を取り付けました>

（ヨコエビの仲間）を見て、興味津津の様子でした。

今回の催しでは、スポアバッグ作りの他にも、児童の皆さんが作った「海の標語」の発表会や、イセエビについてのお話会（西海区水産研究所 吉村拓 先生）、イセエビや藻場を題材にしたクイズ大会などが行われ、先生方も含め、児童の皆さん、大盛り上がりでした。

「海の標語」の発表会では表彰も行われ、漁師の皆さんからサザエがプレゼントされました。その中の1作品、

— おさかなは ぼくのだいすきな

おかずだよ —

2年生のこの作品が発表されると、会場は温かな笑い声に包まれました。漁師であり、活動組織の代表を務める戸高留治さんから一言、「漁師にとって一番うれしい言葉です。」



<活動組織の皆さんから報告がありました>

また、この日は活動組織の皆さんから、これまでの保全活動の成果についてのお話もあり、ユニフェンスの設置とスポアバッグ方式による母藻移植によって、新たに 900m² のヨレモクモドキの藻場が形成されたことが報告されました（2009 年度現在）。

漁師の津田紀章さんは、子供たちを前に、「豊かな海の大切さをわかってほしい。そして将来に受け継いでいってほしい。このよう

な報告を皆さんにすることで、私たちも藻場の重要性を認識しなおしているんです。」



＜ウニ（ガンガゼ）バターのカナッペ＞

2 日目のお昼には、漁協女性部の皆さんの手作りによる、地先の海の幸を用いた料理が振る舞われました。ハバ（海藻：ヒロメ）入りドーナツ、藻場を食害するガンガゼを有効活用したウニバターのカナッペ（ガンガゼにマーガリンを和えたもの）、そして、魚類養殖が盛んな佐伯市ならではのヒラマサ、カンパチのお寿司など、児童の皆さんは大喜びの様子でした。



＜地先の海の幸をおいしくいただきました＞

今回の催しに立ち合われた名護屋小学校校長の河野美和子先生は、「子供たちには蒲江の海を守っていけるような大人になってほしい。砂が水を吸うように、豊かな海の大切さを幼い頃から体感してほしい。」と。

閉会にあたり、「来年も必ずやりましょう！」と声があがりました。

児童の皆さん、次回は船に乗れるといいですね。



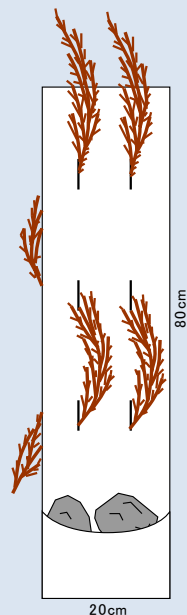
＜次の開催を誓い記念撮影＞

◆ オープンスポアバッグ ◆

縦 80cm、横 20cm のトウモロコシなどのデンプンを原料とした植物由来のプラスチック（ポリ乳酸：PLA）でできた織物で、片側についたポケットに石を詰めて沈子（いわ）とします。縦に切れ込みが数箇所入っており、母藻を縫うように取り付けます。

スポアとは胞子のことで、この作業は海藻が孢子や幼胚を放出する成熟期に実施します。また、海藻が露出している、つまりオープンであるため、オープンスポアといいます。

生地が生分解性であること、海藻の取り付けや設置の作業が容易であることが特徴です。



平成22年度 事業内容のご案内

平成21年度にスタートした「環境・生態系保全対策」も2年目に入りました。平成21年度には、全国22道府県で取組まれましたが、本年度はさらに新たな地域協議会、活動組織が作られ、その取組が全国的に広がっているところです。

JF 全漁連では、平成22年度も引き続き、環境・生態系保全対策を全国的、国民的な取組みとして推進、普及するため、国からの補助を受け、「環境・生態系保全活動支援推進事業」を実施してまいります。

この事業では、全国各地で取組まれている保全活動の情報提供や普及および活動組織に対する技術的なサポートを以下のとおり実施いたします。この事業に取組まれている皆様には是非ご活用いただきたく、ご案内いたします。

① 事例発表会の開催

- ・全国4つのブロックで保全活動事例発表会を開催し、保全活動の成果報告と情報交換の場を提供します。
- ・各ブロック大会で推薦された代表事例を中央大会(東京)で再び紹介します。広く一般の皆さまにも開かれたイベントとします。

② 普及資料の作成・配布

- ・事例発表会の紹介事例を整理し、事例集として関係者の皆さまに配布します。
- ・「海のゆりかご通信」を発行し、活動組織の取り組みをご紹介します。
- ・「ひとうみ.jp」において、保全活動に関わる情報を公開し、情報共有の場を提供します。

③ 技術講習会の開催

- ・活動組織の技術水準の向上を目的として、対象資源ごとに座学と実習を組み合わせた技術講習会を開催します。
- (技術講習会は、藻場3か所、干潟2か所、ヨシ帯とサンゴ礁をそれぞれ1か所(計7か所)にて開催予定です。)

④ 技術サポート

- ・保全活動の専門家が活動組織を訪問し、技術的な指導や助言を行います。
- ・得られた情報や既存資料を整理し、保全活動の手引き、「環境・生態系保全活動ハンドブック(仮称)」を作成、配布します。

★技術講習会の開催地や日程など、詳しい情報は「海のゆりかご通信」次号以降で随時お知らせしていきます。ご不明な点やご相談がありましたら下記までご連絡ください。

JF 全漁連 漁政部 環境・生態系チーム 矢部・関根
TEL : 03 (3294) 9616 (直通) e-mail : k-support@zengyoren.jf-net.ne.jp